

Labyrinth

By motorimoda

TAKE FREE
VOL.1



日本のみならず、
世界のモーターカルチャースタイルを
いち早く取り入れるMotorimodaでは、
今・昔・近未来を縦横無尽に行き交い、
皆様に「Wow!」なアイテムをご紹介します。

今回当社として初めてとなる
定期発行物「Labyrinth」を創刊し、
お客様(読者)とのコミュニケーションをより深め、
活発にすることを目的として制作することにしました。
Motorimodaコレクション、モーターカルチャー、
お客様やスタッフをクローズアップして
皆様にご案内・ご紹介するタブロイド誌となれば幸いです。

多くの情報が氾濫している現在、ご自身の方向性を見つけて
その迷路から脱出してください。



英国ブランド、ベルスタッフが体現する クラフトマンシップへの回帰。

イギリスで巻き起こった産業革命、第一次世界大戦からの復興によってファッションが産業化する中、良質な製品づくりを追求していく英国メーカーも数多く誕生した。そのひとつが百年もの長い歴史を持つベルスタッフだ。防水性、機能性を備えながらファッション性も併せ持つ、妥協のない品質へのこだわりが多くのライダーに支持され続けている。

防水性と機能性にこだわり、 技巧を凝らしたプロダクト。

大人のモータースタイルをテーマに、ヨーロッパを中心とした国内外のトップブランドを扱引Motorimoda（モトリモダ）が、正規輸入元として力を注いでいるのが英国ブランドのBELSTAFF（ベルスタッフ）だ。コットン生地をワックスを染み込ませ「ワックスコットン」をモーターサイクル用ウェアに採用。撥水性と通気性を併せ持ち、快適でファッション性も高く、世界中のライダーに愛され続けている。

今年で創業 100 周年という歴史を誇るブランドで、イギリスのバイクシーンとは深い関わりがある。1907 年、イギリスのマン島で「マン島ツーリストトロフィーレース（The Isle of Man TT）」が初開催。2 年後にはスコットランドで「スコティッシュ 6 デイストリアル(SSDT)」が行われるようになり、バイクシーンは盛り上がりを見せていたが、本格的に発展していったのは第一次世界大戦後だ。創業者のエリ・ベロヴィッチは、大戦中にテントやケープ用にワックスコットン生地を軍に納めるビジネスを展開。戦後に義理の息子のハーリー・グロスバークとともに 1924 年にベルスタッフを設立した。

当時は産業革命と戦後の復興によってファッションが産業化。質より量が求められていたが、カウンター

としてより高い品質を求める流れも興っていた。ベルスタッフもまた、品質にこだわったメーカーのひとつだ。独自開発したワックスコットンを採用したジャケットは、その高度な防水性と機能性から、数多くのライダーが着用。飛行士、冒険家らにも支持され、アラビアの英雄 T・E・ロレンス、女性飛行士エイミー・ジョンソンなども愛用。フィールドを超えた時代のトップランナーたちに愛されるブランドへと成長していったのだ。

冒険を可能にするベルスタッフのアイコン、 トライアルマスター。

ベルスタッフを語る上で欠かせない存在が「トライアルマスター」だ。革命家チェ・ゲバラがバイクで南米大陸横断した際に着用。名優ステューブマックイーンが、映画「大脱走」（1963 年公開）で着用し、プライベートでも愛用していたことでも知られている。

起源は 1948 年、スコットランドのトライアルレース「SSDT」のために開発されたのが始まりだ。悪天候の中、荒野を 1 日最大 100 マイルを 6 日間かけて走り抜けるというレースで、ライダーズジャケットには過酷な走行環境からライダーを守ることが求められていた。

そこでワックスコットンを採用したライダーズジャケットを開発。当時、トライアルの神様と称えられるサミー・ミラー

がレースで着用したところ大絶賛。その結果、多くのライダーに支持されるようになっていったのだ。

近年ではレザーからテクニカルファブリックまで幅広く対応し、グローブやシューズなども展開。トム・クルーズ、ジョージ・クルーニー、ブラット・ピットなど名匠たるハリウッドスターたちや、セレブのファッションistaにも愛されるブランドへと発展している。最新のトレンドや機能を取り入れながらも、最新のトレンドや機能を取り入れながらも、品質やデザイン性にこだわるポリシーは同じ。今日もライダーを取り巻く過酷な走行環境に耐え、多くのライダーたちを冒険の世界へと導いている。



トライアルマスター
モーターサイクルジャケット
¥126,500

アメリカのモータリゼーション黄金期を彩った ガルフオイルのブルー&オレンジ。

120 年以上の歴史を持つガルフオイル。石油会社でありながら、アメリカのモータリゼーションの波に乗って庶民の生活に慣れ親しまれ、ロゴはファッションアイコンとしても愛されている。ガルフのモータースポーツ黄金期をイメージした、オフィシャルライセンスアパレルラインは、スピードへの憧れとチャレンジ精神を落とし込んでいる。

モーターカルチャーを語る上で欠かせない ガルフオイルの歴史。

大人のモータースタイルを提案している「モトリモダ」が、厳選するアメリカ生まれのブランドが「GULF（ガルフ）」だ。1901 年にテキサス州スピンドルトップで石油が発見され「ガルフオイル」が創設。アメリカのモーターカルチャーの発展に深く関わってきた。

ガルフカラーにオレンジが採用されたのは 1903 年。主力の灯油を食料雑貨店で量り売りする際に、仕入先を区別する色がオレンジだったことから、オレンジディスクのロゴが採用されたのだ。同年、フォードモーター社が設立。アメリカのモータリゼーションの波に乗って躍進し、1913 年には世界初となるドライブイン形式のサービスステーションを開設。アメリカ庶民の暮らしに、ガルフオイルのロゴが浸透していったのだ。

同社がモータースポーツに参入したのは 1936 年と

古く、ユタ州ボンネビルのソルトフラッツで開催されたスピードトライアルからだが、ガルフカラーと呼ばれる「ブルー&オレンジ」を採用したのは 60 年代だ。1967 年にフォード GT40 ベースの「ミラージュフォード M1」を製作。コーポレートカラーはオレンジとダークブルーとオレンジに変更。ベルギーのスパ 1000 キロレースで初優勝を飾ったのだ。1968 年には「ル・マン 24 時間レース」にフォード GT40 で初参戦初優勝。1969 年に連続優勝を果たし、1975 年にはガルフミラージュ GR8 でレースを制した。また、1968 年から 1973 年にかけてスポンサー活動を拡大し、モータースポーツに力を入れていたのだ。

ガルフカラーを世に知らしめたのは、名優ステューブマックイーンが主演する映画「栄光のル・マン」（1971 年公開）だ。マックイーン演じる主人公マイケル・ディレイニーが、ボルシェ 917K を走る様子がドキュメン

タリータッチで描かれた。この映画の世界的ヒットでガルフカラーが広まっていったのだ。その後、ガルフは一時レース活動を休止するが、1994 年から再開。ブルー&オレンジのコーポレートカラーは、モータースポーツにこだわるガルフの象徴となっている。

ガルフの精神をアパレルに落とし込んだ アパレルコレクション。

ドライブ×ライフスタイルをコンセプトに、ガルフのスピードへの憧れやチャレンジ精神が落とし込まれたオフィシャルライセンスグッズは、ガルフがもたらした 1960 ~ 1970 年代のモータースポーツ黄金期のイメージを現代的に再構築し、高品質でファッション的なウェアに反映している。

定番モデル「ディレイニーブルゾン」や「ロードマスターブルゾン」に施されたブルーとオレンジのレーシングストライプは、映画「栄光のル・マン」に登場するマイケル・ディレイニーのレーシングスーツがモチーフだ。

ラインナップは、レザージャケットやコットンやポリエステル素材を採用したテキスタイルジャケット、パーカーやポロシャツ、T シャツなど日常に馴染むスポーツ&カジュアルウェアがメイン。シューズやキャップ、バッグなどの小物も展開している。シンプルで洗練されたデザインに、ガルフのロゴエンブレムやコーポレートカラーをあしらっているのが特徴で、レーシーかつヴィンテージ感のある風合いが魅力となっている。



ガルフ タイムレス ヒストリー ジップ フーディー
¥24,200



ガルフ レーシング タイムレス ヒストリー
ベースボール キャップ
¥6,600



56design は、今までになかったコンセプトで立ち上げられたブランドです。趣味として、スポーツとして、ファッションとしてバイクライフを楽しんでいる人、今は乗れないけれど、いつかはバイクに乗りたいと思っている人。そしてバイクには乗らなくても、MotoGP やレースを見るのが大好きな人... “56design” が、そのすべての人々を結びつけるキーワードになれば、Life with Motorcycles の心で願っています。

56design

life with motorcycles



ブラック シルバブルー
ウィンター アーバン ライディング ジャケット ¥59,400



ブラック×レッド ブラック×ブルー
ウィンター アクシス ジャケット 24 ¥64,900



ブラック×ゴールド ネイビー×カーキ
エクストラ ウォーム フーディー 2 ¥49,500



ブラック ナイビー オリーブ
ライディング カバーオール ¥42,900



One Wash Damage Washed Damage Washed
エドウィン コラボ 3D フィット ワイルドファイア
デニム コーデュラ ¥19,800



ブラック アイボリー
ウインド ブレーカー ¥17,600



ファイティーシックス
レーシング チーム
サークル キャップ ¥4,840



カーキ
エア スルー バックパック ¥24,970



グリーン ネイビー×ココテ
ブラック×ブラック
ヘルメット サック ショルダー ¥24,750



テクスチャー イエロー×ブラック ファイティーシックス ホワイト×ブラック



テクスチャー レッド×ホワイト トリミング ネイビー×ホワイト
ネックウォーマー ¥4,950



ブラック グリーン
ロール バッグ ¥9,790



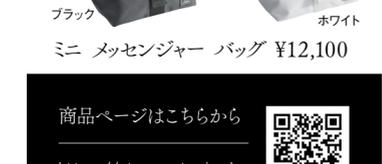
グリーン コヨーテ
ブラック ホワイト
ミニ メッセンジャー バッグ ¥12,100



ブラック アイボリー ブラック×アイボリー
レザー ライディング グローブ ¥11,990



ファイティーシックス
ピット イン
リフレッシュ ミスト ¥3,960
SUNRISE SUNSET



商品ページはこちら
<https://store.motorimoda.com/c/8700?sort=latest>

UMBERTO×LUCE

ハンドメイドであることに注がれる情熱。クラシカルでありながらもユニークなデザインと、確かな安全性能でモーターサイクルブーツを再定義しています。Umberto Luce の製品は、アートとファッションを融合した機能性を第一に製作されています。



ホーン モーターサイクル
スニーカー
¥46,200



MX エディション
2024
¥46,200



ボンハン X
バイカー スニーカー
¥46,200



グース
バイカー スニーカー
¥46,200



スリングフィールド カウボーイ
レディーズ ブーツ
¥48,400



ピアード レディーズ
カウボーイ ブーツ
¥48,400



ラッサー カウボーイ
ブーツ
¥57,200



クラヴィッツ クラシック
エブリデイ
¥49,500



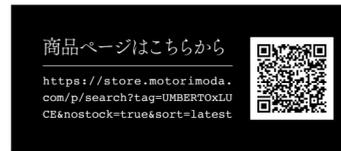
デューン
バイカーブーツ
¥49,500



テレン
バイカー ブーツ
¥49,500



フィンチ モーターサイクル ブーツ
¥49,500



商品ページはこちら
<https://store.motorimoda.com/p/search?tag=UMBERTOXLUCE&nostock=true&sort=latest>

国内最高峰の自動車レース、Super GTのGT500クラスに参戦している、ARTA (オートバックス・レーシング・チーム・アグリ)の新作オフィシャルチームグッズ。サーキット観戦に必須なレプリカウェアやキャップをはじめ、普段使いやすポーターなシチュエーションにも最適なアパレルからアクセサリーなどを幅広く展開。

ARTA



ブラック ブラック
ARTA & AUTOBACS
ロゴ ドライ ポロシャツ
¥7,900



ARTA & AUTOBACS
ロゴ ドライ ショーツ
¥6,500



ブラック ホワイト
ARTA & AUTOBACS
ロゴ ドライ Tシャツ
¥4,900



ブラック ホワイト
ARTA & STATEMENT
ロゴ ドライ Tシャツ ¥4,900



バックプリント
ARTA MUGEN テック Tシャツ
¥7,920



ARTA レプリカ 24 Tシャツ
¥8,800



ホワイト グレー ブラック
ボックス ロゴ スウェット フーディ
¥6,930



ブラック グレー
ロゴ スウェット シャツ
¥6,930



コーデュラ バックパック
¥16,280



マルチ ショルダー ポーチ
¥6,500



オレンジ
マフラー タオル
¥2,750



グレー オレンジ
フード タオル
¥4,620



ブラック オレンジ
マルチ チケットホルダー
¥3,300



ブラック オレンジ
ARTA ロゴ
キーチェーン
¥800



ブラック オレンジ×ブラック
×ホワイト
ニューエラ
ナインフォーティ ARTA
¥2,970



ブラック ベージュ
ニューエラ ナイントゥエンティ
ARTA クロス ストラップ ¥4,950



ブラック オレンジ
×ブラック
ニューエラ ナインフォーティ ARTA
A-Frame トラッカー ¥4,950



ブラック ホワイト
ARTA ショートソックス
3枚組 ¥2,500

商品ページはこちら

<https://store.motorimoda.com/c/1021?sort=latest>



ラフェスタ
オリジナルフーディ
2024
¥14,520



ネイビー グレー



ネイビー ホワイト

2WAY
ストレッチシャツ
2024
¥27,060



オリジナル ビーニー
¥6,600



VITTORIA
ベースボールキャップ
¥6,600



PILOT CAMOSCIO
シューズ
¥66,000



クラシックカー
シルクスカーフ
¥16,500



オリジナル
ネックチューブ
¥3,300



サンド



ブルー



グリーン



メタル キーリング
¥2,970



テディベア ¥3,300



メタル ロゴ ピンバッジ
¥2,200



キャンパス コットン
ショルダーバッグ
¥13,200



MONACO
ダブルバッグ
¥19,800

“世界で最も美しいスポーツカーの祭典”と呼ばれる、イタリア伝統の自動車レース「Mille Miglia / ミルレ ミリア」。そして日本で開催されるラ・フェスタ・ミルレミアとラ・フェスタ・プリマベラ。同イベントのオフィシャルアイテムです。



RED ZIP
ソフトシェルジャケット
¥24,200



V ネッククルールマックス
セーター 2024
¥27,060



EMIRATES ポロ
¥15,400



LEGENDARY T シャツ
¥7,700

商品ページはこちら

<https://store.motorimoda.com/c/2203?sort=latest>



愛車の世界観と合わせたコーディネートでファッションを楽しむ。

スタッフコーディネート編・吉田勝さん

モトリーモダ銀座店の販売スタッフとして働く吉田さんは、イギリス車を愛するファッションista。取り扱いブランドを熟知した吉田さんが、愛車のある暮らしを楽しくする冬のコーディネート提案してくれた。



タタミ LT01 ジャケット ¥82,500 / PANDO MOTO、バイオニア
モノ XTM ジーンズ ¥41,800 / John Doe、シフター XTM ブーツ ¥30,800 / John Doe、ウィズレーウィンターグローブ ¥15,400 / heltons、モーザップ(VやVイオン) ヘルメット ¥169,400 / Ruby、スピード 4 ゴーグル ¥15,400 / banifield、フーティウスバイカーパッチ ¥44,000 / REPLAY、ネットワーク ¥3,080 / John Doe

機能性や安全性はもちろん、カッコよさを楽しく気分を高揚する着こなしを

バイク用アパレルからドライバーズグッズまで取り揃える「モトリーモダ」銀座店に勤める吉田勝さん。長年アパレル業界に携わってきたというファッションistaだ。プライベートではバイクよりもクルマ派で、BMWの2016年式のミニクーペを所有している。

ちなみにBMWはドイツの自動車メーカーであるが、ミニクーペの発祥はイギリスのブリティッシュモーターコーポレーション(BMC)だ。2001年にBMWブランドになったが、デザイン設計はイギリス車だった頃のものを受け継いでおり、生産もイギリスで行っている。そんなイギリス車を愛する吉田さんが、モトリーモダに勤めるキッカケとなったのは、イギリスブランドのヘルスタッフを扱っていることからだ。

「キッカケはヘルスタッフですね。イギリスのデザインとワックスコットの風合いが好きなんです。もともとアパレルが好きで、アパレルの輸入卸しをしている会社

に勤めていました。その経験を活かしながら、好きなワックスコットに触れたかった。モトリーモダは輸入に力を入れている会社でしたし、今までの経験も少しは生かせるんじゃないかなと」

取り扱いブランドを熟知した吉田さんが、愛車のある暮らしを楽しくする冬のコーディネート提案してくれた。まずはバイク乗り向けに、アウターはバンドモト製タタミLT01ジャケットをセレクト。1.1~1.3mm厚のオイルドレザーを使用し、肩と肘にCEレベル1認定のD30プロテクターを装備している。「テーマはクラシックでありながらもちょっと今風。ヨーロッパ製のアパレルは、日本人に合うサイズがあまりないのですが、バンドモトは割とコンパクト。タイトに着られるモデルです。パンツはジョンドゥーのバイオニアモノXTMジーンズ。引裂強度の強いデニムで、プロテクターもしっかり入ってます。靴もジョンドゥーのシフターXTMブーツ。サイドジップで脱ぎ履きしやすい。ソールも柔らかいので、バイクを降りた後にカフェに立ち寄られたりお土産を探したり、

歩くシーンが多い場所でもお使いいただけます」

もう一着は、撮影に使用したベスパに合わせてつづクルマにもマッチするスタイルだ。

「ジャケットは私の大好きなイタリアのブランド、ミッレミアのREDZIPソフトシェルジャケットです。同じブランドでニット帽や小物もコーディネートしました。単純にカッコいいし、ヨーロッパの他の国々がないイタリアらしい色使いがかわいいですね」

吉田さんいわく、カッコよく着こなすコツは愛車の世界観と合わせることだ。 「私の場合、車に乗る時はミニなのでイギリスっぽい雰囲気になっています。お客様でしたら、バイクに乗られる時の写真だったり、もしくは目の前でバイクを見て、世界観がちゃんと作り出せるようなコーディネート心がけています。あと色使いも重要。なおかつ、気分が高揚するような着こなしを、安全と共にご案内しています。機能性だけでなくファッションも同時に楽しみましょう。そこが私のモータースポーツとアパレルを融合させる考え方で」

ミッレミア RED ZIP ソフトシェルジャケット ¥24,200 / Mile Miglia、ミッレミアオリジナルビーニー ¥6,600 / Mile Miglia、ミッレミア キャンバスコットショルダーバッグ ¥13,200 / Mile Miglia、ハラマクルードレッドシューズ ¥26,400 / Linea di Corsa、アンバススリムフィットジーンズ ¥36,300 / Replay

リアルにバイクで走り続けているからこそ、自分流のスタイルにこだわりたい。

スタッフツーリングレポート編・加賀博文さん

モトリーモダ銀座店で店長を務める加賀さんは、自らもトライアンプのスラクストンRSを駆るバイク乗り。休みの日には愛車でさまざまな土地へツーリングに出かけている。リアルに乗り続けているからこそその気づきをフィードバック。バイク乗りの目線からライディングスタイルの提案をし続けている。

憧れたのはバイク小説で描かれたバイクと旅の世界。

「小学校中学校の頃から自転車で1人でツーリングに行っていました。当時、バイクが流行っていましたが、身のまわりを見ると、どちらかというと暴走族というか…バイクイコール反抗のシンボルみたいな時代だったんですね。高校生の頃は、自分が本格的にバイクに乗るというは思ってなかった。ただ本を開くと、バイク小説なんていうのも当時流行っていて、自分としてはそちらの世界に憧れがありました」

バイクとの馴れ初めを語るのには、モトリーモダ銀座店で店長を務める加賀博文さん。転機となったのは、大学進学で長野県に引っ越したことだ。「長野県はバイクに乗って楽しい道、走りたい道がたくさんあるところで、バイク乗りのメッカみたいな場所でした。ふと、バイト先の友達に『お前、バイク似合うんじゃない?』って言われたことがあって…。それまで自分は乗らないって思っていたんですけど、『あ、俺、乗っていいんだ』と思って(笑)。すぐその足で免許を取りに行きました」



こうして、18歳で二輪免許を取得。バイクでのツーリングにすっかりハマってしまったのだ。その後、イギリス製の高級車ディーラーやスポーツカーの輸入販売に携わった後、トライアンプの正規販売店に勤務。プライベートではツーリングを楽しんでいた。「バイク業界に入って5年ほど勤めるうちに、乗り物のスペックがどうのこうのっていうところよりも、スタイルとかファッションの方に興味が本当はあったんだ…というところに気づいたんです。そのタイミングで新しいチャレンジをしたくなりました」

そんな折り、もともと客として通っていた「モトリーモダ」で人材を募集しており応募したところ採用決定。今年で3年目を迎える。休みの日には愛車トライア

ンプのスラクストンRSでツーリングに出かけ、旅の様子をSNSに投稿しているという。

「昔からインスタグラムにツーリング写真を投稿していたんです。そうしていく中で、お客様から実際にリアルにツーリングをしているライダーの意見として、コーディネートだったり、装備の助言を求められることが多くなってきました。自分の経験を伝えたい気持ちがあります。あとは単純に、景色のいい場所でバイクと撮った写真をみんなに見せびらかしたい(笑)。中学生の頃、自転車を置いて景色を撮ったのが、今はバイクになったというだけです」

日常的にバイク用のアパレルに携わるようになって、1人のライダーとしてもツーリングのスタイルについて深く考えるようになったという。

「バイクはライダーがまたがって走らせて初めて完成する乗り物。バイクだけだったら止まって立ってることすらできない。どんなバイクに乗ってるかも重要ですが、どんなスタイルで乗るかも重要だと思っています。自分としてはバイクバイクしたスタイルはあまり好きじゃありません。かといって、機能や安全面を蔑ろにするのは違う。バイクが変われば、着るものも変わりますし、季節でも変わる。あと、降水確率によって変わるところもあります。安全はもちろん大切ですが、あまり堅苦しく決めつけるのではなく、自由な発想で、ライダー1人1人がもっと高い意識で自分のスタイルを探してもらえると嬉しいですね」

それぞれのライダーが自分のバイクライフに合わせて、自分流のスタイルを見つけて欲しいという。「やっぱり接客の基本はそこから。プラスアルファで、自分の色、味を出してもらいたいと思います」

文字盤を作成するには、通常の機械加工に比べると12倍の時間が必要で
す。ベルナルド・リチャードは、すべて自分の目の届く範囲での作業にこだわ
りました。フィティングから組み立て、セッティング、研磨まで全ての主要な作業は自
らのアトリエで行っているため、年間で約2000個と数を制限し、品質を落とさない
ように大量生産を意図的に回避しているのです。「B.R.M」は、これからも量
ではなく質にこだわって、オリジナリティの高い時計を発信し続けていきます。



B.R.M x HRC
V12-44-SQ-N-HRC162
¥3,135,000



B.R.M x HRC
V6-SA-CRB-HRC-D-1b
¥1,485,000



B.R.M x Martini Racing
V6-44-SA-SQ-DAM-MR02
< Martini Racing™ >
¥1,375,000



商品ページはこちら
<https://store.motorimoda.com/c/1107?sort=latest>

1961年創業のフランスのブランド、Linea di Corsa (リネアディコルサ) は、
60年代の官能的で甘くてほろ苦い人生を志すワンランク上の大人の男性
が快適に過ごすことを目的とした、「Dolce Vita Sporting Club」なアパレル
を展開している中で、同ブランドの軸のひとつとなっている、ドライビングシュ
ーズの販売をスタート。タウンユースとドライビングを両立させたスニーカーは、
まさにオシャレなクルマ好きに欠かせない1足になってくれるかもしれません。



パナメリカ コルサ ¥35,200



ハラマ トリコロール ¥26,400



ハラマ ビアンコ ¥28,600



商品ページはこちら
<https://store.motorimoda.com/p/search?tag=LineaDiCorsa&nosock=true&sort=latest>

REPLAY

過去のヴィンテージを継承しつつ、全く新しいものを現代風にア
レンジしたイタリアを代表するデニムブランドとして、「リメイク」「リ
クリエイト」「リエラボイト」のコンセプトをテーマに、常に進化を
遂げてきました。現在 REPLAY はヨーロッパ全土を中心に、
世界50か国以上で展開。



ブラック アーミーグリーン
マイクロ ポリ コーチジャケット
¥36,300



RIDE HARD
バイカー ウインドウジャケット
¥45,100



チャコール ライトミララー
プリント&パッチ オーバーシャツ
¥59,400



ウッドグレー スモークドアズール
エンボス リサイクルフライン ベスト
¥46,200



デジタルカモ コットンツイル
フルジップ シャツ ¥46,200



ブラック リードグレー
ピーチハンド コットン フリース スウェット
¥41,800



ブラック マスクグリーン
クルーネック タイガー セーター
¥38,500



ウールブレンド ニット
¥34,100



ホワイト アイアングレー/バックスタイル
スーパークロス ライダー
グラフィック Tシャツ
¥19,800



ブラック アーミーグリーン
ストレッチ コットン ピケ ポロシャツ
¥19,800



アーミーグリーン ナチュラルホワイト
カスタム レタリング Tシャツ
¥9,900



3D ロゴ キャップ ¥11,000
カモフラージュ ロゴパッチ キャップ ¥11,000
パッチ&プリント キャップ ¥12,100



ナイロン ショルダーバッグ ¥19,800



スピリット
レザー ベルト
¥24,200



ブローニー スーパースリム
インディゴ デニム
¥44,000



アンバス スリムフィット
ジーンズ
¥36,300



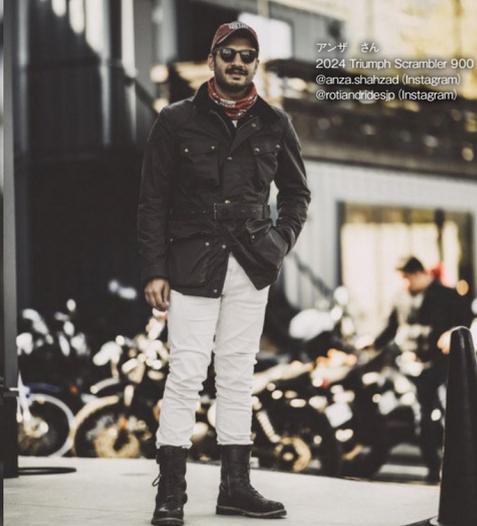
グローバー ストレート
コンフォート ジーンズ
¥41,800

商品ページはこちら
<https://store.motorimoda.com/c/2712?sort=latest>

長谷川秀夫 さん
1998 HONDA STEED VLS



アンザ さん
2024 Triumph Scrambler 900
@anza.shahzad (Instagram)
@rotlandidesp (Instagram)

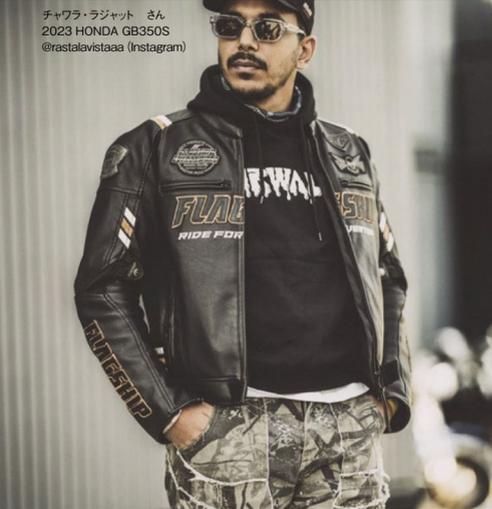


山本晶 さん
1985 HONDA GB500TT



Motorimoda Days ~ Riding Wear で会場を彩ったFashionistaたち~

チャワラ・ラジャット さん
2023 HONDA GB350S
@rastalavistaaa (Instagram)



バイク100台限定で開催されたモトリーモダ主催の「Motorimoda Days 2024」には、ファッションに敏感なモーターサイクリストたちが大集合。秋冬のライダーズファッションを身に纏った来場者たちをご紹介します。

ツーリングシーズンといえば「夏」というイメージが強いが、実はエンジンにとって最も過酷なのが「暑い夏」である。外気温が高いと冷却機能が効果を発揮しにくいため、エンジンが過熱しやすくなってしまうのだ。また、一般的に暖かいと酸素は薄く、寒いと酸素が濃くなるといわれている。気温が低いとより多くの酸素を取り込むことができるので、燃焼効率が向上するのだ。つまり、気温の低くなる秋から冬、春先にかけては、エンジンにとっては絶好の季節といえる。

もちろん、ライダーにとってもメリットはある。寒くなると空気中の水やゴミが少なくなり、景色が夏より澄んで遠くまでキレイに見ることができる。ツーリング通には「冬が好き」という人も少なくない。とはいえ、バッテリー関係は寒さに弱くなるし、ライダーを取り巻く走行環境は過酷だ。ライディングウェアや装備には防寒性や機能性はもちろん、ファッション性にも気を使いたい。そこで、モトリーモダが主催するファンミーティングイベント「Motorimoda Days 2024」にやってきたファッションスタたちを参考にしよう！
冬のライディングファッションの基本は「重ね着」をする定番のレイヤードスタイル。寒さ対策のためだけに重ね着をするのではなく、下に着るアイテムもしっかりとオシャレに魅せるのがコツだ。

まず、ライディングスタイルの要となるのがアウターだ。防寒と防風性、そして、必要性に応じてプロテクション機能を装備したい。この日は晴天とあって、軽装の人もチラホラ。コートやジャケットを脱いでくつろぐ人も。レザーのライダーズジャケットや、ワックスコットのトライアルジャケット、テキスタイルのワークコートやミリタリーコートなど多種多様だ。

次に、色や素材でディテールを高めるのがインナーとミッドインナーだ。T シャツや襟付きシャツに、パーカーやスウェットを合わせ、コーディネイトにメリハリをプラス。色や素材の質感の違いで奥行きを持たせている。

そして、ポイントとなるのが小物。ヘルメットを脱いでもヘアスタイルに影響がないうちに、キャップやキャスケット、ベレーなどのヘッドウェアを愛用する人多数。フットウェアはライディング用でもシューズやブーツなどにタイプが分かれば、防風性を高めるネックウォーマー、まぶしさを軽減や防風に役立つサングラスもバイク乗りの定番アイテム。小物に存在感のあるアイテムをプラスして、個性的な着こなしに仕上げている。もちろん、愛車とのコーディネートも重要で、ファッションはバイクの楽しみのひとつとなっている。

西山正輝 さん
1969 Royal Enfield BULLET 350
@monansroppu (Instagram)



MAO さん
1969 Triumph TR6C Trophy
@madamanooyajiji (Instagram)



宮本政宗 さん
Ducati GT1000
@ginji_miya_moto (Instagram)



柳田祐佳 さん
YAMAHA MAXAM



杉本航一郎 さん
Royal Enfield CONTINENTAL GT 650
まき さん
YAMAHA SR400 @maki_66 (Instagram)



Motorimoda maniac bikes

ヨーロッパウェザー（雨が多く、室内保管が前提）が、動態保存を困難にしているという事情がある。

ここに紹介する販売車両は、そんなヨーロッパの各地で見発見された希少車である。アンティーク（製造から100年以上が経過した骨董品や家具）の価値を知るヨーロッパの人々は、古い物や歴史に敬意を持っている。つまり発見されたビンテージモーターサイクルは大切に保管されていたものが多く、外装・機関共にオリジナル状態が堅持されている。

例えばこのカワサキ 500SS、エグリタンクと呼ばれた貴重な初期型だ。エポニーのイメージが強いカピビットなレッドも生産されていた。余り知られていないカワサキ、特にドイツでは2ストリプルが人気。空冷4気筒のZと並んで専門ショップが数多く存在する。この車両はマイルメーター表示であることから、アメリカで購入され大西洋を渡ってきた車両と推測される。

更に2台のスズキ GS1000Sに注目されたい。AMA スーパーバイク選手権におけるスズキのデイトナ4連覇を記念したウエス・クーリーレプリカである。AMA は全米選手権であるから GS1000 をベースにした記念モデルのヨーロッパ仕様 (km / 表示メーターとロングフェンダー

が特徴) は貴重な。もう一台のカスタム GS も興味深い。当時 GS1000 エンジンベースとしたフランス・スズキが世界耐久選手権で大活躍した。現車は耐久レーサーをイメージしたようなオリジナルカウルを装着している。ヨーロッパ仕様のライムグリーンの Z1000R 2も極めて珍しい。いわゆるローソソレプリカのメイン市場はアメリカとカナダであった。ライムの新芽か、悪魔の色をイメージしたと伝わるライムグリーンがヨーロッパ人の好みには合わないという分析があり、欧州専用色が存在する。この R2 の完成度が後の Z1100R (空冷 Z のファイナルモデル) に繋がったという点で、ベースの Z1000J 同様に歴史的価値のある名車と言える。MAGNI (マニ) GIAPPONE52 は、イタリア語で日本を意味するジャポネの名にあるように当時の輸入元であった福田モーターズ 50 周年とマニの 20 周年の記念モデル。エンジンはモグッチの 1100 スポルト。ビンテージバイク、特にヨーロッパ仕様との出会いはまさに一期一会。絶好の機会を逃す次のチャンスがいつ訪れるかは分からない。もし貴方の琴線に触れた車両がここにあったなら、現車を実際に確認して吟味されることをお勧めしたい。



500SS マッハ III (H1) /Kawasaki
203.5 万円

500 MACH(H-1) ●エンジン:空冷 2 サイクル 3 気筒 ●排気量:498cc ●初年度登録:日本国内未登録車 ●保管状態:室内保管 (日本到着後) ●走行距離:12,515 マイル (※約 20,140km)



GS1000E/S /SUZUKI
132 万円

GS1000S(GS1000) ●エンジン:空冷 4 気筒 DOHC 2バルブ ●排気量:997cc ●初年度登録:日本国内未登録車 ●保管状態:室内保管 (日本到着後) ●走行距離:24,720km



GS1000E/S /SUZUKI
車検 2025 年 4 月
242 万円

GS1000S(GS1000) ※ 2 型 ●エンジン:空冷 4 気筒 DOHC 2バルブ ●排気量:997cc ●初年度登録:2023 年 4 月 ●保管状態:室内保管 (日本到着後) ●走行距離:13,777km (※ジュリアーノ・モンテッセル・レオ・タイ・ウィンカー・リヤ用スモールタイプ) ●マフラー:社外品 (※LINEA OG JOLLY) ●ポイントカバー:スカルトンリヤサス・MARZOCCHI ●点火系:AS ウォーター製 (※ビックアップコイル含む) ●クラッチ系:握力軽減キット組み込み済み ●その他別体式 ETC2.0



Z1000R /Kawasaki
143 万円

Z1000R2(KZ1000R) ●エンジン:空冷 4 気筒 DOHC 2バルブ ●排気量:998cc ●初年度登録:日本国内未登録車 ●保管状態:室内保管 (日本到着後) ●走行距離:61,689km ●カスタム:・ブレーキ:前後ステンレスメッシュホース・リヤサス



GIAPPONE52 /MAGNI
車検 2026 年 5 月
330 万円

ジャポネ 52(MG4) ●エンジン:空冷 2 気筒 OHV ●排気量:1,060cc ●保管状態:室内保管 ●走行距離:12,924km (※機関維持の為、多少延びます。) ●カスタム:別体式 ETC1.0



TR5T /Trophy
車検 2027 年 3 月
260 万円

1974 年製の TR5T Trophy は 929 台しか製造されなかった希少車です
TR5T Trophy ●製造年:1974 年 ●エンジン:空冷 OHV 2 気筒 ●排気量:500cc ●初年度登録:令和 6 年 3 月 ●保管状態:室内保管 (日本到着後) ●走行距離:3km (※正確な実走行距離は不明) ●カスタム:USB 電源 1ポート付属 ●



FTR Carbon /Indian
車検 2027 年 10 月
231 万円

FTR Carbon ●製造年:2021 年 ●エンジン:水冷 V ツイン ●排気量:1200cc ●初年度登録:令和 3 年 10 月 ●保管状態:室内保管 ●走行距離:2,623km ●別体式 ETC2.0
S&S 製フルエキゾーストマフラー (ノーマル無) 左右スクエア型ミラー (ノーマル無)

車両に関するお問い合わせ

モトリーモダ ルーチェ
(TEL: 042-454-5020)



バイク乗りのファッションistaが集う Motorimoda Days 2024 開催!

東京・銀座を拠点に大人のモータースタイルを発信するセレクトショップ「モーターモード」が8年ぶりに主催イベント「Motorimoda Days 2024」を開催! ファッションやトレンドに敏感なバイク乗りたちが集うファンミーティングだ。

秋晴れの祝日、宮ヶ瀬に オシャレなバイク乗りが集結!

世界のトレンドをいち早く取り入れ、スタイルにこだわるバイク乗りに人気のセレクトショップ「モーターモード」は、東京銀座を拠点に全国に展開。ファッションに敏感なモーターモードファンも全国各地に存在している。そんなファッションistaたちに向けたマニアックなファンミーティング「Motorimoda Days 2024」が、11月4日の祝日に開催された。

実は約8年ぶりとなる主催イベントで、前回は八ヶ岳自然文化園で開催。今回は神奈川県宮ヶ瀬湖近くの相川町にあるMiyagase Village(宮ヶ瀬ヴィレッジ)が舞台だ。バイクと車をテーマにした都市型カフェ「ユナイテッドカフェ」の宮ヶ瀬店。山や湖に囲まれた自然の豊かな地域の中に入り、「山あいのドライブイン」がコンセプト。都心からクルマやバイクで約1時間程度というアクセスのよさが魅力だ。

ギャラリースペースを併設したカフェを中心に、様々なコンテンツを展開。車中泊できるRVパークやテント泊ができるキャンプエリア、20ftコンテナが並ぶマルチスペース、芝生のイベント広場など、約1000坪にわたる広大な敷地にさまざまな施設があり、まさにヴィレッジ=村という印象だ。

この日はモーターモードのイベントで貸切となっており、1日限りのモーターモード村が出現! 完全予約制で来場はバイクのみ100台限定というもので、プライベート感も満載。協賛には、モーターモードが厳選するこだわりの6ブランドがラインナップした。

11月4日当日、朝9時にゲートオープン。大型の台風21号「コンレイ」の影響で開催が危ぶまれたが、見事に快晴となり、続々とバイクが到着。トライアンフ

やBMW、ドゥカティといった欧州車をはじめ、国内外のバイクが集まり、駐車スペースにはオーナー自慢の愛車がズラリと並んだ。参加者にはドリンクチケット、モーターモード直営店や公式オンラインショップで使える500円OFFクーポンがプレゼントされる。バイクとマッチしたファッションで、オシャレ度の高さはさすがの一言! 華やかにイベントがスタートした。

メイン会場への小高い丘を登っていくと、ベンダーブースやフードスタンドが並ぶショッピングエリアが目の前に広がっており、フードスタンドではドリンクの他、カフェメニューと違う軽食メニューを用意。人気は骨付きソーセージのホットドッグ! 芝生の敷き詰められた広場でピクニック気分を楽しんだ。

ベンダーブースは56 design. 白いTシャツと黒いバイク、Dark, Heart Beat Motor Club, SHINICHIRO ARAKAWA など、コンセプトualなブランドがラインナップ。白いTシャツと黒いバイクでは、ライブプリンティングが話題となり、ライダーたちに大好評だった。また、愛車のある暮らしを提案するCASA GARAGEのモデルハウスならぬ、モデルガレージが展示。オシャレなカフェのようなガレージに、多くのライダーが興味津々で見学に訪れていた。

そして、11時からお待ちかねのステージスタート。モーターモードの代表、岡林道則さんがサプライズでトークショーに登場! 銀座店スタッフのちゅきさんがMCを務め、バイク系インフルエンサーでYouTubeチャンネル「YU.SR500 / 愛車のある暮らし」を主宰するYU(ユウ)さん、ロイヤルエンフィールドジャパンのアンバサダーを務めるモトプロガーのmapicoさんが登壇。台本なしのフリートークで、愛車への思い入れやファッションへのこだわりを語った。そのほか、即

席のテーマに合わせた無茶振トークなどあり、和やかで楽しいトークショーとなった。

続けて協賛ブランドからの豪華景品や商品券をかけて抽選会が開始。最初に振り分けられた入場番号による抽選で、モーターモードで購入したアイテムを身につけていると、そのアイテムの数に応じて当選確率がUPするルールだ。例えばジャケット1着を購入していたら当選確率は2倍、さらにシューズも購入していた場合は3倍となる。当選番号がアナウンスされると、歓声が沸き起こり、ステージは大いに盛り上がった。

ちなみに当日は、モータリストによるイタリアのメーカー、ファンティックの試乗会も開催。公道を使った先導車つきの試乗で、多くのライダーたちがファンティックの人気モデルを楽しんでいた。

こうして、盛りだくさんのコンテンツを楽しみ、14時には解散。旅するライダーたちの止まり木のような和やかで温かいイベントとなった。

【イベント名】 Motorimoda Days 2024
【開催日時】
 2024年11月4日(月・祝) 9:00 - 14:00
【開催場所】
 Miyagase Village(United Café) 敷地内
 神奈川県愛甲郡愛川町半原 2574



Shop Information



豊富なラインアップが魅力のフラッグシップストア

モトリーモダ 銀座

住所 〒104-0061 東京都中央区銀座 8-16-6-1F

営業時間 10:00~20:00 定休日: 年末年始 TEL.03-6226-2515

- ・交通機関 JR「新橋」駅(銀座口) 徒歩9分 ・地下鉄「銀座」駅(A3出口) 徒歩11分
- ・都営大江戸線「築地市場」駅(A3出口) 徒歩4分 ・首都高速「新橋」ICから約1分



国内最大の売り場面積を誇る直営店が誕生!

モトリーモダ 神戸

住所 〒658-0027 神戸市東灘区青木 1-2-34 サンシャインワーフ神戸 2階

営業時間 10:00~19:00 定休日: 年末年始 TEL.078-806-8258

- ・交通機関 電車でお越しの場合: 阪神電車「青木」駅南へ徒歩10分
- ・お車でお越しの場合: 国道43号線「青木」交差点を海側へ 無料駐車場 850台完備



六輪愛好家が集い、その輪が広がる場所

モトリーモダ 福岡

住所 〒818-0024 福岡県筑紫野市原田 6-5-10

営業時間 10:30~19:00(平日)、10:00~19:00(土日祝日)

定休日: 木曜日/年末年始 ※定休日が祝祭日の場合は、通常営業致します。(年末年始を除く)

TEL.092-926-8862

- ・交通機関 JR「原田」駅徒歩1分 ・九州自動車道「筑紫野」ICから約7分



無数のライトに照らされた大人の秘密基地

モトリーモダ ルーチェ

住所 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘 3-2-1

営業時間 10:00~19:00 定休日: 年末年始

TEL 店舗直通: 042-454-5020 * EC 事業部: 042-443-8567

- ・交通機関 京王線「調布」駅徒歩14分 ・中央自動車道「調布」ICから約10分



56design を中心とした実力派二輪系ブランドが集結

56design TOKYO by Motorimoda

住所 〒150-8330 東京都渋谷区宇田川町 21-1 西武渋谷 B 館 6階

営業時間 10:00~20:00 TEL.03-3462-3651

- ・交通機関 JR 山手線、埼京線、湘南新宿線、成田エクスプレス(ハチ公口)
- 東京メトロ 銀座線、副都心線、半蔵門線 東急 東横線、田園都市線、京王 井の頭線「渋谷駅」徒歩3分



車好きとモータースポーツファン必見の専門店

Pole Position by Motorimoda in A PIT AUTOBACS SHINONOME

住所 〒135-0062 東京都江東区東雲 2-7-20 A PIT AUTOBACS SHINONOME 店舗内 2F

営業時間 9:00~21:00 定休日不定休(施設に準ずる)

TEL.03-3528-0357 (スタッフ直通: 070-1539-5451)

- ・交通機関 りんかい線「東雲駅」徒歩約1分
- ・レインボーブリッジ方面: 台場出口から約5分 千葉方面: 有明出口から約5分



国内2店舗目となるドライバーズグッズの専門店

Pole Position by Motorimoda in A PIT AUTOBACS KYOTO SHIJO

住所 〒615-0051 京都府京都市右京区西院安塚町1 2F カフェスペース横

営業時間 10:00~20:00 定休日不定休(施設に準ずる) TEL.075-326-0055

- ・交通機関 嵐電嵐山本線 山ノ内駅徒歩10分 ・阪急京都線 西院駅徒歩14分

編集後記

いつも Motorimoda をご利用頂きありがとうございます。バイヤー兼代表の岡林です。これまでの商品が中心だったカタログから当社に関わる人々にもクローズアップしたいと思いこのラビランスを発刊することにしましたが、いかがでしたでしょうか?クルマ・バイクと言っても、そこにはさまざまなジャンルや趣味が存在します。新たな発見が喜びになり、今後のモーターライフに影響を受けることもありますので、この本誌では形式にとらわれない横断的なトピックを盛り込みたいと思います。



Michinori Okabayashi

SNS でも情報を発信しています。是非フォローして下さい!

